

このたび入学されました新入生の皆さん、そして保護者の皆さま、まことにおめでとうございませう。学校生活におきましても、次第にコロナ禍の話題から遠ざかるような環境へ変わってまいりましたが、今年度の「金光藤蔭高等学校入学式」がこうして挙行できますことを、ともに慶ばせていただくことがやはり大切かと、思わせられる所がございませう。

本校は、金光教の教えに基づく建学精神をもって設立された、金光教ゆかりの学園であり、創立98年という長い歴史と伝統を備えた学校です。今日からスタートする新入生の皆さんの学園生活を、ここからしっかりと見守ってまいりたいと思ひます。入学式に際して思ふ所を、少し申し述べませう。

スマホやパソコンで、「ジョージ・ワシントン／桜の木のエピソード」と打ち込んで検索をかけてみますと、アメリカの初代大統領＝ジョージ・ワシントンが、桜の木を切つて父親にそのことを正直に話したという、あの有名な話は実は作り話だつたと出て来ませう。あれはワシントンの死後 アメリカの牧師さんが子供向けの本で、「ウソをついてはいけないう」という教訓のために書いた創作のようです。「ウソをついてはダメだ」という話自体がウソだつたという、何か笑話のようなことになっておりまして、「作り話だつたとは知らなかつたなあ」と、驚く方がおいでになるかも知れませう。

この例に限らず、私たちに知らないうことがたくさんあります。でも一方で、私たちは色々な所で色々なことを教えられて、知らなかつたことを知つていきます。中でも、研究によつて解明された最新の知見には、刺激的なものがあると言ひます。

シジュウカラという小鳥がいます。この鳥の言葉を研究する人がいて、鳥どうしの具体的なメッセージのやり取りが、『動物たちは何をしゃべつてゐるのか？』という本で語られてゐるようです。シジュウカラの近くに天敵が現れたとします。ヘビなどですね。その時にシジュウカラは鳴き声を発して、仲間に伝えるわけですが、ただ伝えるだけではないようです。すぐに逃げないといけないうとか、まだ少し余裕があるとか、シジュウカラが危険を伝える鳴き声には、その切迫度に応じた文法が存在するといふのです。手練れのシジュウカラの中には、仲間に「超危険」というウソのメッセージを伝えて、エサを自分のものにするといふ輩もいて、びっくりするような、人間顔負けの高度なやり取りをしているのだと知りました。

近年では、鏡に映つた自分を認識できる動物がゐるとか、植物と昆虫が複雑な情報のやり取りをしていることなども分かつてきたようです。こうした最新の知見を聞かされませうと、別に自分たち人間だけが優れているわけではない、といふことが分かつてきます。もし、人間だけが優れていると思つてきたとしたら、それは勘違ひだつたと分かつてくれると申ひませうか、知るといふことは、自分の心に色々な刺激をもたらしてくれるものなのです。本当に「知る」とか「分かる」といふのは、そういうことなのですね。

さて、今日この学園の一員となられた皆さんは、ここから本学で、それこそ色々な知見に触れ、多くの知識を吸収しつつ学園生活を進められます。学業に限らず、知らなかつたことを知つていくのは、単純に「偉くなる」とか「賢くなる」ことではなくて、まだまだ知らないことの多い自分の姿を知つたり、今まで知らなかつた世界を経験していくことです。ちょうどシジュウカラの言葉を知つて、人間だけが優れているのではないと分かるように、人は知ることによつて心に刺激を受け、まだ経験したことのないう世界に自分を連れ出す面があります。これが「成長」といふことです。

本学園では、心を豊かにするといふ教育精神を、今日まで大切にしてきました。皆さん方がこれから本学で学んでいくこと、また友人関係などを通して経験するあらゆることが、自分を知り、新しい世界を知り、自分の心と人間性を豊かにするものとなるよう、そして皆さんの本学での毎日が、明るく、楽しく、希望に満ちたものになっていくよう願ひをかけたまひて、縁あつて本学の門をくぐられた皆さん方への告辞といたひませう。

新入生の皆さん、金光藤蔭高等学校へようこそ！

義務教育を終え、いよいよ高校生活が始まります。今日から新入生の皆さんは、高校生としての“自覚”をしっかり持って下さい。これまでやってきたことを継続して高校でも頑張ろうと思っている人、心機一転これから何かに挑戦しようとしている人、とりあえず高校生活に慣れてからと思っている人、ここにいる新入生の皆さん全ての方が同じスタートラインに立っています。スピードの速い遅いではなく、着実に一歩ずつ前へ進みましょう！

さて、今年に入って国内では大きな災害が起り、国外では未だに戦争や紛争が止みません。皆さんの小学校や中学校でのあるはずだった時間を少なからず奪ったコロナは5類感染症になり、減少傾向にあります。何が起こっても不思議ではない世の中で、本校は98年の歴史を紡いできました。大正15年に創立以来、女学校・女子高時代を経て、現在に至ります。金光教の教えを根幹に、「天地自然、周囲の人々に感謝し、自分自身、他人を大切にし、平和を願い、社会に貢献する人を育てる」という建学の精神のもと、“心の教育”を第一に実践しています。日々の学校生活の中で、強くて、優しく、美しい心を育ててほしいと願っています。

幸運にも、皆さんが3年生になる令和8年度には、学園創立100周年を迎える記念すべき年になります。記念の行事や学校の中心に皆さんがいるはずで、18歳（成人年齢）になる年、100周年を迎えるという縁を素晴らしいものにしてほしいと思います。

私は、57年の人生の大半をスポーツ中心に過ごしてきました。小学校時代は柔道を習い、中学・高校・大学ではバスケットボールに明け暮れました。選手時代から教員としてこれまでの期間を併せると、45年間バスケットボールに携わってきました。一つのことをやり続けた結果、これまでたくさんの人に出会い、影響を受け、お世話になったことが、私のかけがえのない財産となっています。そのお陰で今の自分があると思っています。

“継続は力なり”という言葉があります。何かを続けることで、経験や発見が得られます。生き甲斐が見つかるかもしれません。それは人間力を高める大きな要因となるはずです。3年間という時間は、これから先の長い人生のほんの短い時間かもしれませんが、将来の進路、生き方を左右する大切な期間になります。目標を見つける、何かに打ち込む、好きなことを徹底的にやってみる、いろんなことに興味関心を持つ、人との付き合い方を学ぶなど、多くのことを学び、夢に向かって突き進んでほしいと願っています。

今日から高校生活を始めるにあたり、毎日の生活の中で、心に留め、常に実践してほしいことを3つお伝えします。

一、礼儀・挨拶・言葉遣いを身につけ、高い規範意識を持ち、法律は勿論、学校や社会のルール、マナーを遵守すること。

二、生活習慣（食事・睡眠）の確立。時間管理・体調管理を心がけること。

三、人の話を聴く力、自分で考え行動する力を養うこと。

以上の3点を身につけることが、社会を生き抜いていく力となります。

新入生の皆さん、これから金光藤蔭の多彩なコースで、たくさんの成功や失敗を経験し、人生の土台作りをしてください。本校の教職員は優しく厳しく、皆さんを全力でサポートしてくれます。皆さんの高校生活が、先の未来へと続く輝かしい時間となるよう祈っています。

最後に、教育活動を展開するにあたり、保護者の皆さまと本校教職員との信頼関係は欠かせません。何卒、ご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、入学に際しての挨拶といたします。